

1. 評価結果概要表

作成日

平成 20年 8月 15日

【評価実施概要】

事業所番号	4090900020		
法人名	株式会社 ニチイのほほえみ		
事業所名	ニチイのほほえみ麦野		
所在地	福岡市博多区麦野3-15-22 〒 816-0082 (電話) 092-588-6181		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成20年8月12日	評定確定日	平成20年9月3日

【情報提供票より】(平成 20年 7月 25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 ・ 平成 19 年 11 月 1 日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	14人	常勤 10人	非常勤 4人 常勤換算 11.6人

(2) 建物概要

建物構造	重量鉄骨 造り		
	2階建ての～ 1～2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	46,000円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(一時金を含む)	有(225,000円)	有の場合償却の有無	有 無
食材料費	朝食 実費 円	昼食 実費 円	
	夕食 実費 円	おやつ 実費 円	
	または1日あたり 1,100円程度		

(4) 利用者の概要(3月 1日現在)

登録人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	3名	要介護2		1名	
要介護3	6名	要介護4		7名	
要介護5	1名				
要支援1	名	要支援2		名	
年齢	平均 80歳	最低	64歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	成富整形外科/森眼科/有野内科/石橋歯科/福岡徳洲会病院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者の日常生活動作機能の低下に伴い、頻繁な地域との相互交流は難しい状況の中、散歩時の挨拶、地域商店を利用した食材や日用品の購入、廃品回収への協力など、出来る範囲での取組みが行われている。また、ホーム行事に子供会を中心とした地域の方々に参加していただくなど、地域交流への取組みがみられる。毎日、様々なアクティビティーケアに取り組みされており、利用者の方の賑やかな声や笑顔などから、利用者が安心して毎日を過ごしている様子が伺える。昨年、法人母体が移行したことに伴って、各種研修の機会等から遠ざかった点は否めないが、今後、職員の資質や段階に応じた外部研修への参加の機会、法人全体での人権研修等、計画的・継続的な勉強会への取組みが期待できるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	現法人へ移行してからは、初めての外部評価の受審である。
重点項目	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	今回の外部評価を受けるにあたり、管理者・リーダー・ケアマネジャーにより協議して自己評価への取組みが行われた。外部評価結果を受けて、運営推進会議で報告するとともに、改善について全職員と協議する予定である。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)
	町内会長、老人会、育成会、地域包括支援センター職員、家族などの参加のもと、2ヵ月に1度の開催がある。地域包括支援センター職員から介護保険内容について説明をしていただいたり、高齢者の疑似体験や勉強会を開くなど、ホーム内の内容にとどまらず様々な内容について意見交換の場となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	家族会時や家族面会時の声かけ、「たより」に利用者一人ひとりの様子を記入しての送付、ケアプランの説明、その都度の電話やメールでの報告など、一人ひとりの家族に合わせた報告が行われており、これらの報告を通じて家族の意見・要望を表出してもらっている。また、出された意見や要望等は、申し送りで伝えるなど、反映させるための取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者の日常生活動作機能の低下に伴い、頻繁な地域との相互交流は難しい状況ではあるが、散歩時の挨拶、地域商店を利用した食材や日用品の購入、廃品回収への協力など、出来る範囲での取組みが行われている。また、ホーム行事に子供会を中心とした地域の方に参加していただくなどの交流がある。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	経営母体の社是や経営理念はあるも、グルー プホームとして独自の理念の作成は、これから である。		現に取り組まれているケア内容や事業所が 真に目指すべき内容について、職員全員で考 えて、理念の作成に取り組むことを期待しま す。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	経営母体の社是や経営理念の内容について、 毎朝、朝礼で唱和を行っている。しかし、事業 所として独自の理念の作成はこれからであり、 事業所独自の理念の実践にまでは至っていな い。		事業所独自の理念の作成へ職員全員で取り 組み、理念にもとづいたケアの実践に向けた 努力を期待します。
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流すること に努めている	散歩時の挨拶、地域商店を利用した食材の購 入や日用品の購入、廃品回収への協力を行っ ている。また、ホーム行事に子供会を中心とした 地域の方に参加していただくなどの交流があ る。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	現法人へ移行してからは、初めての外部評価 の受審である。前法人としての外部評価結果 は、運営推進会議時に報告し、意見を聞くなど の取組みがある。今回の外部評価結果を受け て、改善について全職員と協議する予定であ る。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター職員から介護保険内容について説明をしていただいたり、高齢者の疑似体験や勉強会を開くなど、ホーム内の内容にとどまらず様々な内容について意見交換の場となっている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加がある。また、空き情報の問い合わせがきたりその都度の報告・相談等、連携へ取り組んでいる。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	家族会での説明、職員への会議での説明が、今までに1度行ったのみであり、継続的な説明への取組みはこれからである。		運営推進会議時や家族会時に地域包括支援センター職員から、制度について説明していただくなど、広く情報を発信し、繰り返しの制度説明を行い、周知に努めていただくことを期待します。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会時や家族面会時の声かけ、「たより」に利用者一人ひとりの様子を記入しての送付、ケアプランの説明、その都度の電話やメールでの報告など、一人ひとりの家族に合わせた対応がある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や家族面会時の声かけ、その都度の電話、メールでの報告などを通じて、家族の意見・要望を表出してもらっている。また、出された意見や要望等は、申し送りで伝えるなど、反映させるための取組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員が入職した場合は、先輩職員の指導とフォローのもと、利用者を受容し、利用者には尊厳をもって接することで、馴染みの関係づくりへの取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用等に関しては、何らの制限は設けていない。職員採用は法人での採用であり、希望ややる気を重視した採用である。レクリエーションや料理にアイデアを出してもらったり、資格取得に向けて勤務ローテーションを調整するなどの取組みがある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	経営母体移行して1年であり、職員研修や各種研修・勉強会等への計画的な取組みと実践は今後の課題である。		やっと体制的にも落ち着きつつあります。今後、職員の基本的資質である人権意識の喚起のために、各種講話への参加、出前講座による勉強会など、さまざまな機会を利用して、ホームとしても法人全体としても取り組んでいただくことを期待します。
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修や実践者研修への参加、各種研修案内を職員に回覧しての希望を募るなどの取組みはあるも、参加は職員に委ねられている。経営母体移行して1年であり、職員研修や各種研修・勉強会等への計画的な取組みと実践は今後の課題である。		体制的に落ち着きつつあります。今後、職員の資質や段階に応じた外部研修への参加の機会を確保したり、法人全体での計画的・継続的な勉強会への取組みなどに期待します。
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域にある他のグループホームとの交流や連携に向けた計画はあるも、実践的な取組みはこれからである。		今、計画されている職員同士の交流や各グループホーム間の交換体験等へ取組み、職員の新たな発見や気づきを生む機会を確保し、サービスの質の向上に向けて取り組んでいただくことを期待します。


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員は優しく対応し、コミュニケーションを密にすることを重点に接している。その時々状況により、体験入居や見学を行うなどの取組みがある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	戦争体験や出身地の話、各地域で行われている伝統行事についてなど、日常の場面の中で学ぶ取組みがある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりを通じて利用者本人の思い等の把握に努め、把握した内容は申し送りで伝達している。センター方式の利用を試みているも、内容によってバラツキが生じており、職員間での情報共有への取組みはこれからである。		利用者の生活を支援するためのアセスメントとして、センター方式の利用に再度着手され、本人・家族の思いや暮らし方への希望などを把握、共有し、利用者本人の視点に立ったより良い支援の基礎となるよう、取り組んでほしい。
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	家族面会時の声かけやその都度の連絡などを通じて家族の希望や要望を聞き、日常のかかわりを通じて利用者の思いの把握に努め、プランに反映させている。また、日々の申し送り、毎月のモニタリング、カンファレンスで協議・検討するなどの取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	定期的、及び状態変化時の見直し以外に、毎 月のカンファレンス会議時に、見直しの必要性 の有無にかかわらず検討している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	早期退院に向けて、入院先の主治医・医療関 係者との連携、訪問看護と協力しながらの居室 での点滴治療などの対応がある。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	ホーム協力病院による週1回の往診がある。 利用者の今までのかかりつけ医へは、家族対応 で可能である。また、歯科や眼科も提携先を持 つなどの支援がある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	数年前から、家族の意向の確認は徐々に行わ れているも、利用者本人の意向の確認はこれか らの課題である。		センター方式の利用に再度着手され、本人・家 族の意向の確認と共有に努め、今後予測され る状態変化に応じた話しあいと、利用者本人 の尊厳に配慮し、自己決定に沿っての支援体 制作りを期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	利用者の視線に合わせた声かけや対応が行わ れている。利用者の状態を良く観察しており、 トイレへのさりげない声かけ誘導が行われるな ど、羞恥心に配慮した対応が見られた。また、 記録類は、適切に管理されている。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	ホームとしてある程度の流れはあるものの、 日中の過ごし方、入浴や散歩の希望やかかる時 間など、利用者のペースに応じた対応がある。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	法人全体で管理栄養士が作成した献立を参考 に、利用者の希望を基にメニューを決めてい る。職員と利用者は同じテーブルで食事を取 り、和やかな雰囲気であった。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	希望により毎日の入浴が可能である。入浴に かかる時間やタイミングなど、希望に沿った対 応がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	食器拭き、洗濯物たたみ、植物への水やりな ど、利用者の出来る事や出来そうなことを把握 しての支援がある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	日々の散歩、週2回の買い物、ホーム行事と しての外出、外気浴など、利用者の状況や希望 にそった対応がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は開錠している。利用者の常態をよく観 察したうえでサインを察知して一緒に出かける などの支援がある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	ホーム内に防火管理者を置き、防火管理者を 中心として年に2回の避難訓練への取組みがあ る。運営推進会議時に町内会長への協力依頼を 行っている。		緊急時の地域との相互協力にむけて、運営 推進会議や日々の地域とのかかわり等を利用 してのさらなる働きかけを行ってほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	管理栄養士が立てた献立を参考にしており、 毎日の食事・水分量のチェックを通じて、栄養 バランス等の把握がある。水分摂取量が少ない 利用者にはお茶ゼリーを準備するなどの対応が ある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	1階リビングとの続きでウッドデッキがあ り、2階はバルコニーが設置されるなど、自然 の風を肌で感じることができる。リビングや畳 のスペースは、自然採光が十分に取り入れら れ、居心地よい空間となっていた。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室には箆笥、机、椅子、クッション、写真、テ レビなど、使い慣れたものや馴染みのものが持 ち込まれており、安心して過ごすための工夫が ある。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号